

## 寄付募集の背景 ～その2～

上尾裕昭（同窓会長／20期）

## 『アーカイブ・ルーム』

2016年の春の同窓会の役員会で浮上した「記念館の改修工事の企画」は、その後の数ヶ月間で試案を作成して7月の役員会で最終案をまとめ、2016年8月6日の定例理事会で諮ることになりました。

建物の劣化に伴い一部が落下して危険性を生じている外壁の修復に加えて、高校から要望が出された空調設備の刷新と2Fの日本間の畳替え、下見をした副会長達が提案した男女別の洋式トイレへの改変、ここまでは少なくとも実現しなければならないと感じました。

一連の話し合いの中で「記念館は同窓生のため・・・という側面もあるので、この際に従来からの懸案であった母校のアーカイブス（歴史）資料を展示できるスペースも検討しよう。」という展開となりました。執行部での話し合いと高校との協議を重ねた結果、1Fの会議室の中央ゾーンに20名の人達が小会議をできるスペースを残して、壁面にショーケースを置いてアーカイブス資料を展示する案が固まりました。その後、従来は薄暗い雰囲気玄関ロビーも明るくして、ここにもショーケースを並べることにしました（図）。

アーカイブ（archive）の言葉の意味を百科事典で調べると「重要記録を保存・活用し、未来に伝達すること。記録を保存・閲覧できる場所」と記されています。130年の伝統を誇る母校には沢山の資料が残されていますが、校舎の3F資料室で眠っていました。それらを整理して数多くの人達に観ていただけるようにすることがアーカイブス・プロジェクトで、高山龍五郎・前会長（14期）がご就任になった時からの宿願となっていました。アーカイブス委員長に任命された中村吉則氏（20期）のリーダーシップのもと、この4年間に資料の整理と電子媒体化が進み、その一部は2015年8月の130周年記念事業のパネル展（ホルトホール）で一般公開され好評を博しました。こうして期は熟し“次は必要なものは恒常的に展示できるスペース”という段階になっていました。

記念館1Fの会議室を「アーカイブ・ルーム」と名付けて、同窓生の皆さんには同級会の際に見学に来ていただけるようなシステムを考えています。高校視察の訪問者にもご案内できるゾーンになると思います。そして何よりも、折に触れて在校生に高校の歴史や先輩方の息吹きに触れてもらえることが念願です。

（次回は「記念ホール新設」を紹介します）

図：記念館 1F のアーカイブ・ルーム予定図

